

会議報告書（概要）

会議名	令和6年度矢板市まち・ひと・しごと創生総合戦略検証委員会
日時	令和6年9月19日（木） 15時00分から17時00分まで
場所	矢板市役所3階 第一委員会室
出席者	矢板市まち・ひと・しごと創生総合戦略検証委員（欠席者1名）

1 開会（15：00）

2 挨拶

3 議事

(1) デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生拠点整備タイプ）に係るKPIの令和5年度実績値の報告について

(2) 矢板市まち・ひと・しごと創生総合戦略に係るKPIの令和5年度実績値の報告について

○議事（1）及び（2）について、資料に基づき事務局から説明を行った。

【質疑・意見等】

○委員から出た主な意見は以下のとおり。

- ・文化スポーツ複合施設については、素晴らしい施設ができたと感じている。空調も整っていて、利用者にとって非常に魅力のある施設である。
- ・今後はこの素晴らしい施設をどのように活用していくかが興味深いところである。
- ・スポーツが矢板市の1つの魅力となっているので、人が集まるように民間を巻き込みながらイベントを仕掛けてはどうか。イベントで矢板に1回来てもらって、次の宿泊等につながると活性化されると思う。
- ・未来体育館については、バスケットボールのプロの公式試合開催は難しいが、高校生・大学生なら問題なく使える。埼玉県深谷市等は同じような施設を持っているが、イベント等をやってうまく仕掛けている印象がある。
- ・山の駅たかはらは、最近のアウトドアブームもあって、利用者がとても増えているのでビジネスチャンスである。6月のツツジの時期あたりは相当多いので、今後は年間を通した集客が必要になる。
- ・城の湯を活用したスポーツツーリズムの推進に取り組んでいただき、経済波及効果の増加につなげてほしい。
- ・総合戦略のKPIについて、誘致企業数や市内企業就職者数は上がっているが、人口減少の流れを止めるまでには至っていない。人口がそれなりに保たれている自治体は、大きな製造業があるところがほとんどである。
- ・従業員が大勢いるような企業を誘致することが前提である。
- ・総合戦略の実施内容と取り組み方について、この方法で目標が達成できるのか。また、状況の変化に応じて、目標を見直すことも必要ではないか。
- ・消滅可能性から解消となった自治体が239あるので、その成功事例から学ぶことが大事ではないか。
- ・大阪の寝屋川市が消滅可能性自治体から脱却したのは、子育て政策を重視し、若い子育て世代を誘致してきたからと聞いた。一方では、隣の市が新たに消滅可能性自治体に該当しており、隣接自治体間の競争になっているという指摘もある。
- ・東京の会社では、工場をつくりたいニーズがあり、栃木県も1つの大きなターゲットとなっている。
- ・企業側は、工場を建てた後に従業員が集まるかどうかを心配されていて、必要な人材が集まるかどうか立地条件の一つとなっている。建てた工場に人が集まるということをしっかりと説明できると、

企業誘致がやりやすいということを目にする。

- ・起業する人向けに行っている経営創業塾は、マーケティングや資金繰りを学べるもので、多いときには40人くらいの受講者がいるが、それを受けて起業する人は少ない。
- ・商工会としていろいろなイベントに関わることも大切だと思うが、このような事業を実施したり、疲弊している商店のサポートをしたりすることが本来だと思っている。
- ・経済センサスによると、商工会の加入率が約50%であり、存続ボーダーぎりぎりとなっている。
- ・コロナによりネット販売が急速に普及し、地元商店での買い物は減っており、売る側の高齢化も進んでいるため商業は様々な問題を抱えている。
- ・今回、若年女性や人口の問題等が改めて表に出てきたところなので、その対象となる年齢層の方にしっかり意見を聞いて取組を進めてほしい。

- ・子育て世代への支援がどれだけ充実しているかというところがポイントであり、市には毎回、他の市よりも格段にすごいと思われるような支援策を考えてほしいと要望しているところである。

- ・子育てに関しては、自分たちが子どものときと比べれば、充実しているように見える。
- ・高校を卒業して就職するのがスタンダードだった時代と違い、大学や専門学校等に進学するのが当たり前となっている。大学等でいろいろなことを学び、その自分のスキルを試したいと思ったときに、地方にはそういう場所が少ないため都会に行ってしまうことが多いのではないかと感じる。
- ・高い教育を受けた結果、自分の評価を求めて都会に行ってしまうことも、今の地方が抱える問題の原因の一つと感じている。

- ・たくさんの情報がある時代で、一時的に都会へ出て行ってしまふのは仕方ない。
- ・一度外へ出て行ってしまっても、矢板に対する思いがあれば戻ってくることも多いので、小さい頃からの学校教育や家庭教育が重要である。

- ・高齢化がさらに進んで、免許を返納して車が使えないことになると、デマンド交通が重要なまちづくりのキーポイントになってくると感じている。

- ・地元の行政区では、祭りがあってもお囃子を叩く子どもたちがいないような状況である。地域の行事に参加するような子どもをどうやって育てていくかが我々の課題になっている。
- ・シルバーで働いているが、老人のみの世帯がかなり多く、地域に溶け込めていない方も多い印象がある。

- ・矢板のデマンド交通は充実している。他の市町と比べて、矢板は運賃が安い。今は、高原地区の方も通院で利用したりしている。大きい車に変更してはどうかとの意見もあるが、今の大きさの車だからこそ歩くのが大変な高齢者を玄関先まで迎えに行けるメリットがある。

- ・矢板にはJRがあり、東京に遊びに行くにも電車が便利なので、市営バスとデマンド交通の乗り継ぎの良さを生かすことが重要と感じる。

- ・デジタル田園都市国家構想交付金について、KPIの評価自体は来年度以降というところが多かったが、数値が減少した要因について、休業があったり、通行止めがあったりと分析されていた。途中の年度で達成できていなくても、原因分析自体をしっかりやって、最終年度にはKPIをしっかり達成していることが望ましい。
- ・住んでいる方々から、矢板市に魅力がないという話を聞く。YADの活動があるが、若い人たちが地域とのつながりを持って自ら活動していて、とても重要だと考える。
- ・若い頃、小さい頃から、自分たちの地域に何かしら関わりを持って、小さなことでもいいので、地域で何かをやったという経験があると、いずれ地元に戻ってくるきっかけになると思っている。
- ・YADの取組は、県内でも先進的な取組で、それを参考に県で高校生地域定着モデル事業を始めた経緯がある。
- ・TAKIBIでも素晴らしい取組をしていて、そういった地道な取組が徐々に効果が出ると思っていて、

そういった取組ができていない市町もある。

- ・20歳から59歳の女性へのアンケートで、初めに就いた職が正規雇用の方は、配偶者がいる割合は64%で、非正規雇用の方は34%という結果がある。最初にどういう職に就くのか、その後の結婚や出産等へのモチベーションへ大きく影響しているという結果が出ているので、女性がきっちり働ける環境をつくるのが大事である。
- ・YADの立ち上げから関わっていたが、そのモデルとなったのは鹿沼市や栃木市だった。栃木市の高校生クラブで活動していた子が、一度都会に出ても後で栃木市に戻ってきて就職している。
- ・若者をお客さんとしてではなく、まちづくりと一緒にやっていく仲間として活躍できる環境をつくるのが大事であり、失敗しても良いので学校や地域と一緒にやっていくのが大事である。
- ・今回整備した施設については、3つの施設がつながって楽しめるようなストーリー展開を考え、3つの施設をうまく使って楽しめるようなことを打ち出していくと良いと思う。その際のターゲットとしては、市外の方だけでなく、まずは市民が魅力に気づき、ファンになるようなことをやってほしい。特に、未来体育館は可能性が高く、フットボールセンターと連携してイベントをやったほうが良いとの意見もあったが、そのイベントを高校生が主体で開催しても良い。
- ・栃木市高校生クラブでは、毎年、中心市街地で高校生文化祭という大きいイベントを自分たちで企画してやっている。
- ・総合戦略のKPIについては、半分くらいが良い進捗状況なので、全体的にはがんばっていると感じた。
- ・市のHPを見たが、やいたこどもまんなかプロジェクトのサイトは子育て情報がよくまとまっていて分かりやすい。
- ・2023年にこども家庭庁が発足し、全国どこの自治体も子育て政策に取り組んでいるので、どこかで矢板市の独自性を打ち出してみてもどうかと感じた。
- ・人口減少は止まらないので、人口減少適応策といったコンセプトを持つことも必要かもしれない。少ない人口で魅力的な矢板にするには、人や組織をつなぐコーディネーター的な存在がこれから大事になってくる。
- ・アンケート調査も必要であるが、あくまでも表面的なことしか分からないので、アンケート結果を踏まえて若い人と直接意見交換をすることもやってほしい。

(3) その他

特になし。

4 その他

5 閉会（17：00）